広島大学病院
エイズ医療対策室の取り組み

― 心理職の立場から ―

広島大学病院 エイズ医療対策室
臨床心理士 浅井 いづみ

当院の患者に診るHIV感染症をとりまく現状

偏見・差別を恐れ周囲に告知していない

- 精神的孤立、罪悪感、サポート形成の困難

就労困難、不安定な就労

- 経済的問題を引き起こす可能性

身体症状悪化によるQOL低下

- 社会復帰、長期療養先、介護の問題

もともと抱えている不安定さ

- 精神疾患、パーソナリティの問題、薬物依存

当院の患者にみるHIV感染症をとりまく現状

セクシュアルマイノリティとしての生きづらさ

- 自己肯定感が低い
- 対人関係構築にも影響
- HIV感染と2重の負担感を抱える人も

HIV感染血友病患者が抱える想い

- 治療法のない時代を経験
- 死への不安、差別偏見へのおそれ、亡くなっていった仲間への想い
- 長期生存の可能な時代へ⇒人生の見通しの大幅な変化
- 肝炎、関節症など身体症状の悪化による不安

チームにおけるカウンセラーの役割

患者さんに対して

- カウンセリング（家族・パートナーも含む）
- 心理検査・神経心理学的検査

医療スタッフに対して

- 情報・方針の共有
- 心理的問題の見立てを伝える

カウンセリングの実際

＊２名の常駐カウンセラー
＊派遣カウンセラーが定期派遣

本人の希望

・初回面談
・心理検査
・認知機能検査

受診時の様子や
生活状況から

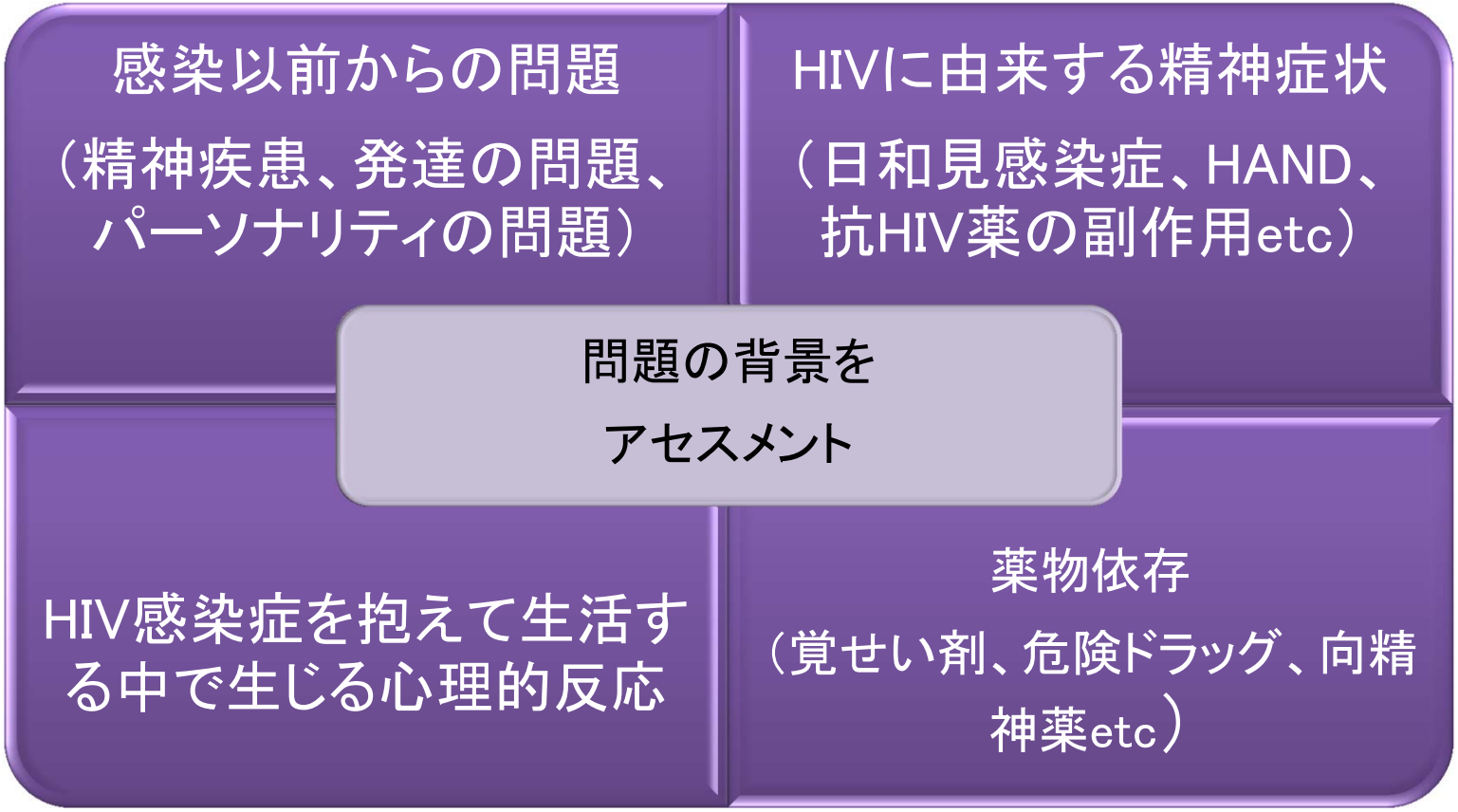
・不眠
・不安が強い
・気分の落ち込み
・人間関係のトラブル
・退職、転職など
環境の変化
・アドヒアランス低下
・認知機能の低下が
疑われる
・身体症状の悪化

医師・看護師

カウンセラーによる
カウンセリング

・継続的なカウンセリング
・より詳細な心理検査の実施
・精神科受診の提案、支援

心理的問題のアセスメントのポイント



留意している点

＊初回面談のルーチン化

＊心理検査、認知機能検査によるメンタルヘルスおよび認知機能の評価とフィードバック面接

メンタルケアが必要と思われるが、カウンセリングに拒否的な人
潜在的なニーズを抱えた人

カウンセリングで目指すもの

- ありのままの自分の感情を語れる場の提供
- 日常生活に　　決
- もともと抱　　への介入
- 社会生活の広がりを目指した支援

チームの支援が
土台にある

メンタルヘルスの維持・促進
⇒患者自身の保健行動の維持・促進へ

チーム医療において大切だと思うこと

- まずは他職種の専門性を理解する
- 自身の専門性を理解してもらう
- おおまかな役割分担を心得る
- かつ、柔軟性と臨機応変さを持つ
- スタッフの入れ替わりはチームが成長する一つの機会だと捉える
- 情報共有！

  （カンファレンスだけでなく、ちょっと

  したやりとりの積み重ねが役立つ）